

日本トリム (6788)

連結通期 (百万円)		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	EPS (円)	DPS (円)	BPS (円)
FY03/2017		15,251	2,929	2,905	1,969	234.46	60.00	2,130.27
FY03/2018		14,027	1,606	1,681	1,181	143.36	60.00	2,147.35
FY03/2019会予		15,430	2,440	2,345	1,460	182.04	60.00	-
FY03/2018	前年比	(8.0%)	(45.2%)	(42.1%)	(40.0%)	-	-	-
FY03/2019会予	前年比	10.0%	51.9%	39.4%	23.5%	-	-	-
連結半期 (百万円)		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	EPS (円)	DPS (円)	BPS (円)
1Q-2Q FY03/2018		6,944	1,001	1,070	664	-	-	-
3Q-4Q FY03/2018		7,083	604	611	516	-	-	-
1Q-2Q FY03/2019		7,900	1,375	1,330	827	-	-	-
3Q-4Q FY03/2019会予		7,529	1,064	1,014	632	-	-	-
1Q-2Q FY03/2019	前年比	13.8%	37.3%	24.3%	24.4%	-	-	-
3Q-4Q FY03/2019会予	前年比	6.3%	76.0%	65.9%	22.4%	-	-	-

出所: 会社データ、弊社計算

1.0 エグゼクティブサマリー (2018年12月10日)

更なるエビデンス

「グローバルなメディカル企業グループへ！」を標榜する日本トリムの業績動向が堅調である。この経営目標を達成するに向けての先行投資が実施されているものの、従来からのウォーターヘルスケアに係る事業展開が好調に推移していることがより大きな影響を及ぼしている模様である。同社の電解水素水整水器は、医薬品医療機器等法において胃腸症状改善の効果が認められている家庭用管理医療機器である一方、独自の職域販売などの販売チャンネルを通じた拡販が進められている。新製品の投入が奏功していることなどから売上高が好調に推移している一方、これに伴う数量効果も発生しており損益面では大幅な改善が認められる。また、同社は従来のBtoCの販売チャンネルからBtoBも利用した拡販へとシフトしていくことを通じて、海外展開も含めて次元の異なる拡販を目指していきたいとしている。例えば、東北大学医学部との共同研究においては、糖尿病患者への電解水素水の飲用臨床試験を実施中であり、国際学術誌に論文を投稿中とのことである。また、これに留まらずかなり広範な医療を中心とする各種の領域において画期的な効果を発生させる可能性が高まっている。そもそも電解水素水整水器とは、水道水に含まれる塩素や鉛などの不純物を浄水フィルターに通して除去し、その水を更に電気分解してアルカリ性で水素を豊富に含んだ水を生成する機器のことである。即ち、浄水のみならず浄水器や天然水等を供給するウォーターサーバーには認められない上述のような効果を有するため、将来的には電解水素水整水器が市場を席捲する可能性すらあるとされている。

IR 窓口: 取締役 管理本部長 兼 経営企画部長 田原 周夫 (06 6456 4633 norio.tahara@nihon-trim.co.jp)

2.0 会社概要

「ウォーターヘルスケアという、新習慣。」

商号	株式会社日本トリム Web サイト IR 情報 最新株価	 NIHON TRIM CO.,LTD.
設立年月日	1982 年 6 月 12 日	
上場年月日	2000 年 11 月 28 日：東京証券取引所第 1 部（証券コード：6788）	
資本金	992 百万円（2018 年 9 月末）	
発行済株式数	8,656,780 株、自己株式内数 705,743 株（2018 年 9 月末）	
特色	<ul style="list-style-type: none">● 電解水素水整水器首位● 独自の職位販売が主力の販売チャネル● 医療を中心とした各種の領域及び海外での展開に注力	
事業セグメント	．ウォーターヘルスケア事業 ．医療関連事業	
代表者	代表取締役 森澤 紳勝	
主要株主	森澤 紳勝 42.1%、日本トラスティ信託口 13.3%、日本マスター信託口 4.4% （2018 年 9 月末）	
本社	大阪市北区	
従業員数	連結 487 名、単体 346 名（2018 年 9 月末）	

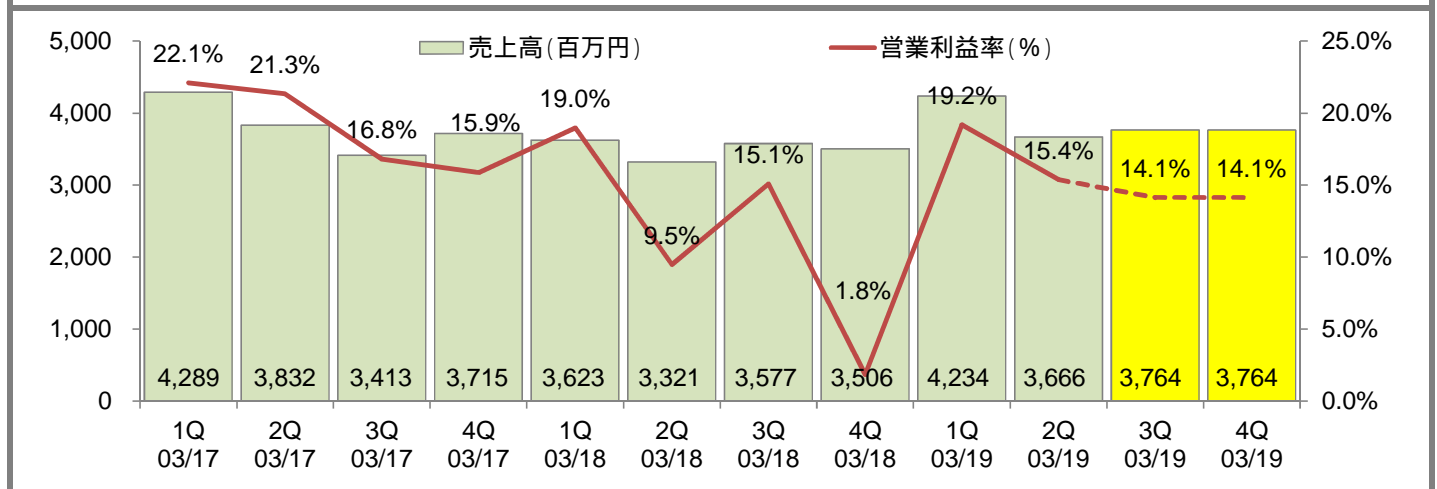
出所：会社データ

3.0 業績推移

2019年3月期第2四半期累計期間

2019年3月期第2四半期累計期間は、売上高7,900百万円(前年同期比13.8%増)、営業利益1,375百万円(37.3%増)、経常利益1,330百万円(24.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益827百万円(24.4%増)での着地となった。当初の会社予想との比較では、売上高で80百万円(1.0%)、営業利益で285百万円(26.2%)と、損益面での上振れ幅が大きい。売上総利益率が当初の想定を上回ったことが主因として挙げられている。電解水素水整水器の直販部門(職域販売)において2017年9月に発売した新製品への需要が大きく拡大しており、生産数量も同様に拡大していることから当初の想定を上回る数量効果が享受されているとのことである。

売上高及び営業利益率

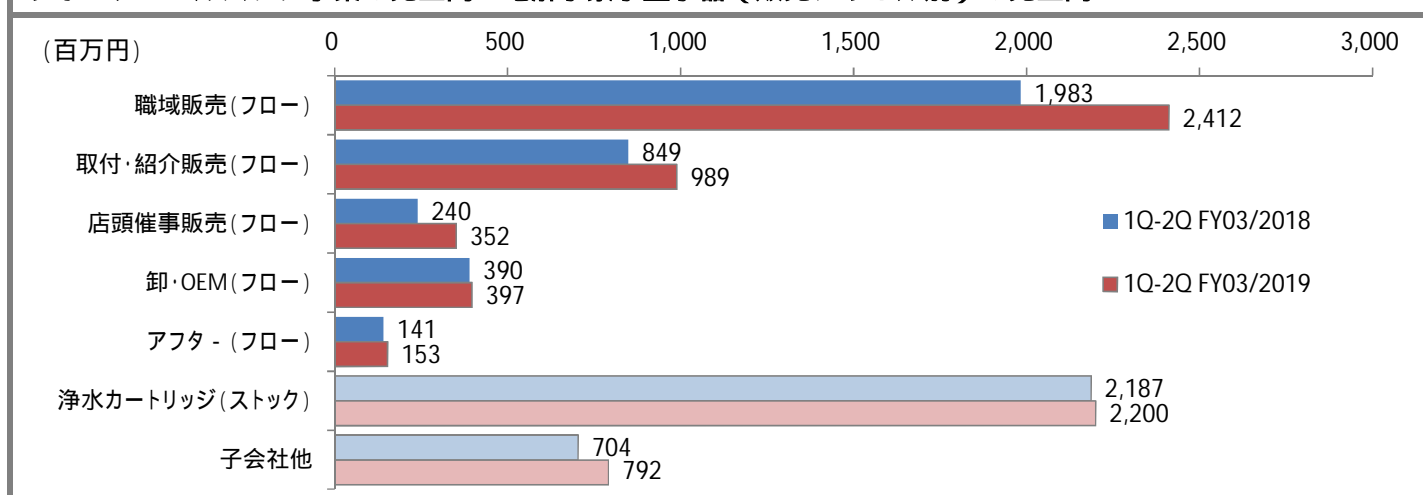


出所：会社データ、弊社計算(2019年3月期3Q及び4Q：下半期会社予想を均等に按分)

事業セグメント別では、ウォーターヘルスケア事業で売上高7,300百万円(12.3%増)、営業利益1,331百万円(32.1%増)である。また、医療関連事業で売上高599百万円(34.5%増)、営業利益44百万円(前年同期：5百万円)である。

主力のウォーターヘルスケア事業の売上高は、フロービジネス、ストックビジネス、子会社他(広州多寧健康科技有限公司、PT SUPER WAHANA TEHNO、その他)の売上高によって構成されている。フロービジネスの売上高は、電解水素水整水器のハードウェアを職域販売などの各種の販売チャネルを通して販売することによって発生する一方、ストックビジネスの売上高は電解水素水整水器に用いられる浄水カートリッジを販売することによって発生する。第2四半期累計期間においては、フロービジネスの職域販売で売上高2,412百万円(21.6%増)と、大幅増収(前年同期比純増額：428百万円)が達成されており、これが同社としての増収(955百万円)に大きな影響を及ぼした。上述にもある通り、新製品「GRACE」の拡販が好調に推移したためである。

ウォーターヘルスケア事業の売上高 / 電解水素水整水器（販売チャネル別）の売上高



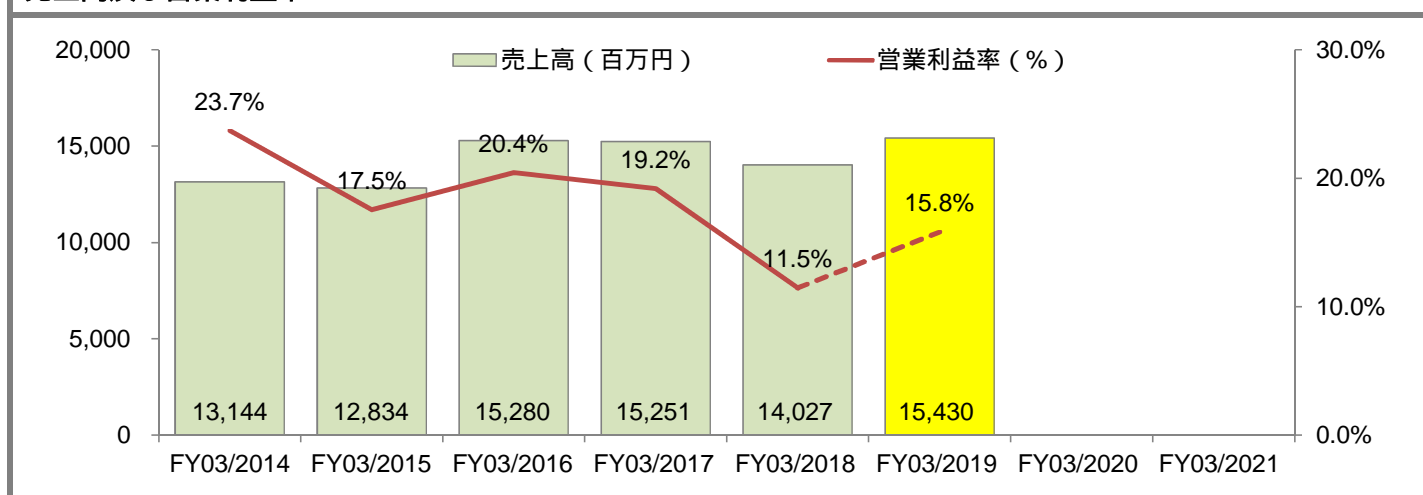
出所：会社データ、弊社計算

2019年3月期会社予想

2019年3月期に対する会社予想（2018年10月25日修正）では、売上高 15,430 百万円（前年比 10.0%増）、営業利益 2,440 百万円（51.9%増）、経常利益 2,345 百万円（39.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 1,460 百万円（23.5%増）が見込まれている。当初の会社予想との比較では、売上高で 90 百万円（0.6%）、営業利益で 310 百万円（14.6%）と、第2四半期累計期間における損益面での上振れが反映されるに留まっており、下半期に対する会社予想は実質的に据え置かれている。ただし、これは保守的な前提に基づいている模様であり、通期においても損益面での上振れが大きくなる可能性が指摘できよう。また、現状では、年間配当金予想も据え置かれている。1株当たり 60.0 円（配当性向 33.0%）である。

4

売上高及び営業利益率



出所：会社データ、弊社計算

Disclaimer

ここでの情報は、ウォールデンリサーチジャパンが当該事業会社の発信する「IR 情報」を中立的かつ専門的な立場から要約して、レポート形式にまとめたものである。「IR 情報」とは、すなわち当該事業会社に係る 弊社との個別取材の内容、 機関投資家向け説明会の内容、 適時開示情報、 ホームページの内容等である。

商号： 株式会社ウォールデンリサーチジャパン

本店所在地： 〒104-0061 東京都中央区銀座 1-13-1 ヒューリック銀座一丁目ビル 4 階

URL：www.walden.co.jp

E-mail：info@walden.co.jp

電話番号：03 (3553) 3769
